２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL. １８

幼児教育研修（年齢別担任研修５歳児　第１回）　　受講者数７６名

日時　令和３年７月６日（火）　１５：００～１７：００

場所　竹の塚地域学習センター

講師　和泉短期大学　児童福祉学科　　教授　　松山　洋平氏

【内　容】

～一人一人が主体的に活動し、協同的な学びが生まれるクラス運営を実現させるための保育者の援助と関わり～

遊びが主体的・対話的で深い学びになるためには、子ども自らが選択できる環境になるよう工夫したり、子どもが何に興味・関心を持っているのかをじっくり見て理解したりすることが大切です。子どもたちが試行錯誤しながら協同的に遊びを進める姿とはどういうものか実際の保育事例をもとに学びます。

【受講者の感想】

＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

・保育者が教えることは子どもが学ぶことを奪ってしまう関わりであることだと学んだ。教えている言葉かけになっていないか、自分の保育を振り返っていく。

・子どもが「やってみたい」という思いを大切にして、主体的に選択できるような環境づくりをすることが大切であると学んだ。子どもが発見したり、気付いたりしたことに保育者も共感して「学び」につなげていきたい。

・小学校の接続を意識すると５歳児クラスではワーク等、席について取り組む活動を多く入れがちだが、そうではなく、子どもたち自身が伸び伸びと心身を穏やかに遊びながら考えたり、力を発揮できるような環境を整えていきたい。

・子どもたちにとっての時間軸は大人が考えているような前進するものばかりではなく、楽しい時間が繰り返されることで喜びと安心感が得られるのだということが分かった。保育者として「子どもの時間軸」を大切にすることを意識的に考えていきたい。

・映像の中の子どもたちが自由自在に道具を使っているのを見て、自園でも遊びの中で様々な用具に出合えるよう環境を整えたいと思った。

＊　ご意見・ご感想

・遊びこむ経験が多いと、学びに向かう力が高くなると知り、今のクラスの環境が遊びこめる環境になっているかと考えた。子どもが遊びを通して主体的・対話的で深い学びができるよう、自らが選択できる環境づくりの工夫やじっくり遊び込める時間の保障をしていくことが大切だと学びました。

２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL.３７

幼児教育研修（年齢別担任研修　５歳児　第２回）　　受講者数６３名

日時　令和３年１１月２日（火）　１５：００～１７：００

場所　竹の塚地域学習センター

講師　和泉短期大学　児童福祉学科　教授　松山　洋平氏

【内　容】

～　一人一人が主体的に活動し、協同的な学びが生まれる
クラス運営を実現させるための保育者の援助と関わり　～

協同的な学びを支えるためには、保育者がゴールを決めつけないことが大切である。保育者が思ったような結果に至らなくても、そこから子どもたちが考えて乗り越えていけるようにするには、どのような援助が必要か。事例をもとに理解を深めていく。

講師　松山　洋平氏

【受講者の感想】

＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

・何かに取り組む時、保育者側のゴールをもちがちであるが、そうではなく子どもなりのゴールを大切にしたり、ゴールを設けずに一緒にどうなるかわからない状況を楽しんでいきたい。

・担任や周囲の目がつい“例年のこの時期の年長児”という視点になりがちだが、保育者の思うゴールに向きすぎず、面白がり、驚き、未知性を大事にしていきたい。

・どうしても運動会やお遊戯会など、ゴールを目指してしまう（完成ばかり目指してしまう）ことが多くなりがちなので、そこだけでなく練習の過程やそこに至るまでの時間をもっと大切にしていきたい。

・子どもたちは保育者が思っている以上にコロナ禍の影響を受け経験していないことがあるかもしれないということを心に留め、まずは子どもの姿を受容していく大切さを学んだ。

・自園でも週案を作成しているが、今回のような形のものは初めて見た。特に活動がどのように展開していくか“きっかけ・はじまり”→“遊びへの関わり・広がり”→“遊びの深まり”といった視点で記述していく形式は見やすく変化が把握しやすいと感じた。

＊　ご意見・ご感想

・５領域や１０の姿を考えた時、例えば「どんな活動があるのかについて」考えたとき、「実践からどんな育ちがあるか」を考えることは多いので、「○○な姿が育つ実践例として、こんな活動例がある」という話が聞きたい。

・５歳児の姿を動画や写真で見せていただき、他園の取り組み方を知り、勉強になった。

２０２１年度　　足立区　保育研修報告　　VOL. ６２

幼児教育研修（年齢別研修　５歳児　３回目）　　受講者数６４名

日時　令和３年１２月　１４日（火）　１５：００～１７：００

場所　足立区生涯学習センター

講師　和泉短期大学　児童福祉学科　　教授　　松山　洋平氏

【内　容】

～一人一人が主体的に活動し、協同的な学びが生まれる
クラス運営を実現させるための保育者の援助と関わり～

子どものあそびが主体的になるためには、保育者主導ではなく、子ども自らやってみたい、やってみようと取り組むことが大切である。子どもが必然性や必要感をもてるようにするための、保育者の関わりについて学びを深める。

講師　松山　洋平氏

【受講者の感想】

＊　研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

・「５歳児はこうあるべきだ」「こうなって欲しい」という思いが先走ってしまい、子どもたちにとって窮屈な園生活になっていたのではないかと改めて自分を見直すきっかけになった。

・保育者が上にいて子どもが顔色を伺うような関係ではなく、保育者も子どもも「私は」と対話できる対等な関係が大切だと改めて学んだ。また、ゴールを保育者が決めてそれに向けるのではなく、子どもと一緒に決めていく大切さも感じた。

・ゴールが考えたものと違うとついつい戻したくなってしまうが、ゴールを決めるのは保育者ではないということを頭の中に入れ、子どもの言葉を多く拾っていきたいと思う。また、子どもが「やりたい」と思った時にすぐに取り組めるような材料、環境を用意しておきたい。

・主体性を引き出す環境づくりには「子どもの姿」だけではなく「モノ」の視点から作っていくことができると学んだ。

・環境には昨年度から力を入れてきたが、子どもがモノに語りかけるのではなく、モノが語りかけるような環境があるということを知って、私の園でもそういう環境を作っていきたいと思った。

＊　ご意見・ご感想

・写真や動画があり、それに対しての解説が丁寧にあり分かりやすかった。

・第一回目、第二回目の内容がまとめられたスライドを振り返りながら、また新たなことを学ぶことができ、理解が深まった。